

# 実質化した人・農地プランの概要

大崎市のホームページ <https://www.city.osaki.miyagi.jp/index.cfm/8,34361,103,212,html>

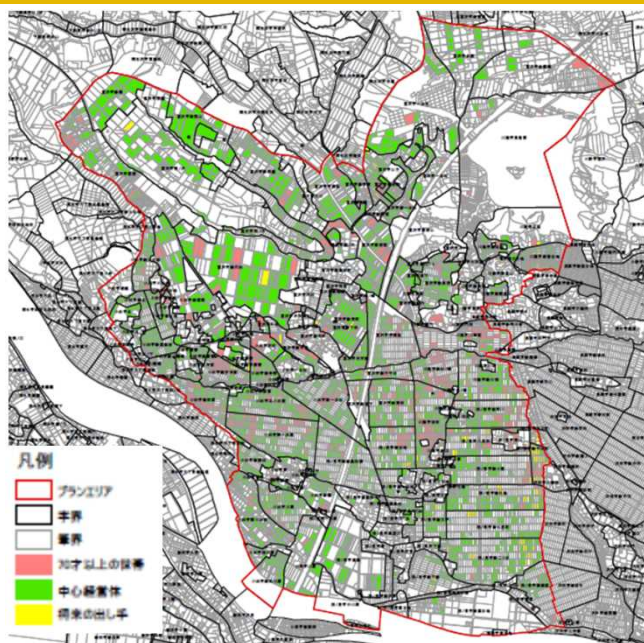
宮城県大崎市  
古川宮沢地区

平地  
農業地域

## 対象地区の状況

地区内の耕地面積	774ha
70歳以上の農業者の耕作面積	67.1ha
うち後継者未定	18.7ha
うち後継者不明	0.0ha
中心経営体	55経営体
現状の経営面積	380.5ha
今後の経営面積	399.5ha
今後の引受意向（拡大分）	19.0ha

## 年齢分布図面



## 対象地の課題

集落営農組織等による大豆等の転作作物を中心に、水稲まで含めた担い手への農地集積が進められ、園芸や畜産との複合経営が行われている。また、担い手の一部では複数集落や他地区にわたって作業を受託する取組も行われており、更なる経営規模の拡大に繋がる活動が見られ始めている。こうした中、地域内の兼業農家の高齢化が進み、世代交代等を機に急速に農地の流動化が進む可能性が高まっている。

## 将来方針

J Aの営農ビジョンと連携し、担い手のコスト縮減のためにも規模拡大を行えるよう、担い手への一層の農地の集約化を図り、農地を効果的に活用する。

担い手がコスト縮減や効率的に農作業を行うため、地域内の分散・錯綜した農地の利用から集約化を図ることが必要である。集約にあたっては公的機関である「農地中間管理機構」を通じて農地を集約することにより、農地流動化を積極的に推進する。

## 将来方針を実現するための取組方針

宮沢地区は、規模拡大と低コスト化に向けた取り組みとして無人ヘリによる水稲の直播栽培を行っている。また酪農家等、畜産農家と連携した堆肥の有効利用や稲わらのすき込み等による土づくりを推進して、高品質で多収の栽培方法を推進していきたい。

### ①複合化の確立

水稲と転作大豆等による土地利用型の農業を地域農業の中核となる認定農業者及び集団転作を主体とした集落営農組織を中心に進める。

### ②6次産業化の確立

女性グループ等に農産加工及び直売所等の取り組みを支援し、6次産業化による地域農業の振興を目指す。

など